

平成23年度 相生市財務書類

新地方公会計制度に基づく財務4表の公表

I 財務4表の作成目的

平成18年5月に「新地方公会計制度研究会報告書」が公表され、それを受けて総務省から示された「地方行革新指針（平成18年8月）」に基づき、平成21年度を目途に「地方公会計改革」に取り組むこととされました。そこで、本市では平成20年度決算から、新たな財務諸表を作成し公表することとしました。なお、財務諸表には複式簿記・発生主義の考え方を取り入れ、資産の公正価値評価を前提とする「基準モデル」と現行の単式簿記・現金主義により資産も決算統計データの積み上げを活用した「総務省方式改定モデル」による処理方法があります。本市では「総務省方式改定モデル」で財務諸表を作成しています。

II 普通会計財務書類

1 対象会計普通会計

普通会計とは、個々の地方公共団体ごとに各会計の範囲が異なり、財政比較などをするために地方財政統計上統一的に用いられる会計区分です。

本市では、次の会計が普通会計となります。

- ① 一般会計
- ② 看護学校特別会計

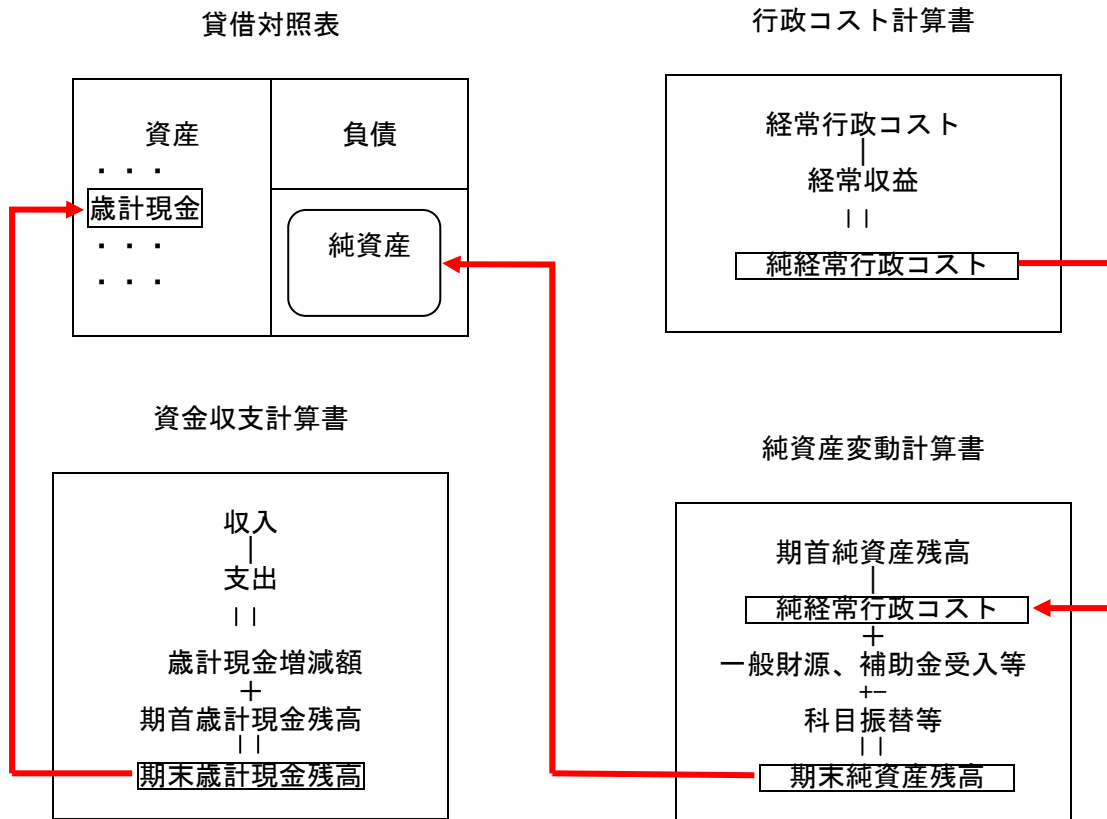
2 作成基準日

会計年度の最終日（毎年度3月31日）を基準日とします。また、出納整理期間（4月1日～5月31日）における出納については、基準日までに終了したものとします。

3 作成資料

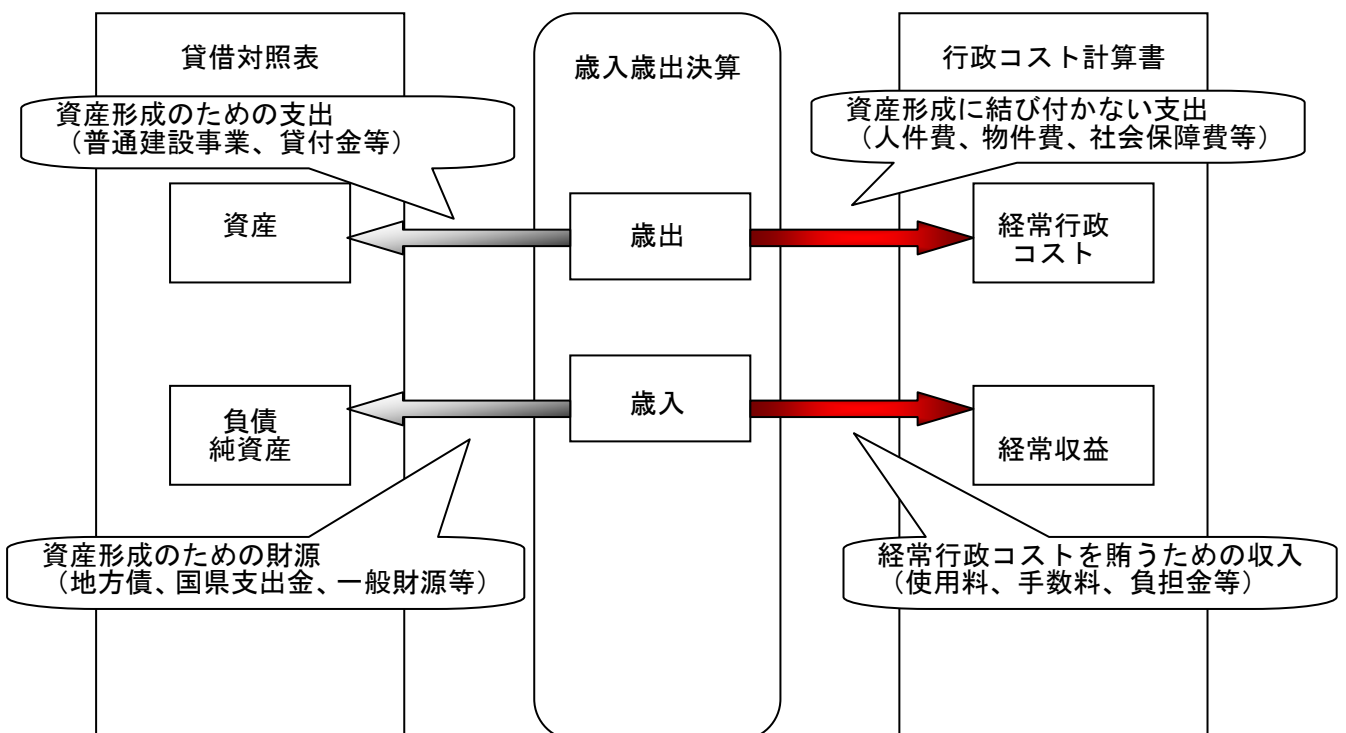
総務省が公表している「新地方公会計制度実務研究会報告書」「財務書類の記載要領」に基づき、地方財政状況調査表（決算統計）の数値を基礎として作成しています。

◎ 財務書類4表の相互関係



財務書類4表は、上記の図のように相互に関係し、矢印で結ばれているところは金額が一致します。

◎ 歳入歳出決算と貸借対照表・行政コスト計算書の関係



貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	12,464,925
①生活インフラ・国土保全	43,808,768	(2) 長期未払金	
②教育	9,701,475	①物件の購入等	0
③福祉	635,578	②債務保証又は損失補償	0
④環境衛生	2,554,874	③その他	0
⑤産業振興	1,360,008	長期未払金計	0
⑥消防	375,292	(3) 退職手当引当金	2,111,985
⑦総務	2,077,889	(4) 損失補償等引当金	0
有形固定資産合計	60,513,884	固定負債合計	14,576,910
(2) 売却可能資産	490,724		
公共資産合計	61,004,608		
2 投資等		2 流動負債	
(1) 投資及び出資金		(1) 翌年度償還予定地方債	1,259,992
①投資及び出資金	1,067,784	(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金)	0
②投資損失引当金	△ 426,160	(3) 未払金	0
投資及び出資金計	641,624	(4) 翌年度支払予定退職手当	220,200
(2) 貸付金	0	(5) 賞与引当金	123,149
(3) 基金等		流動負債合計	1,603,341
①退職手当目的基金	769,244		
②その他特定目的基金	631,027	負債合計	16,180,251
③土地開発基金	0		
④その他定額運用基金	0		
⑤退職手当組合積立金	0	[純資産の部]	
基金等計	1,400,271	1 公共資産等整備国県補助金等	7,515,420
(4) 長期延滞債権	263,809	2 公共資産等整備一般財源等	46,095,656
(5) 回収不能見込額	△ 67,613	3 その他一般財源等	△ 3,424,214
投資等合計	2,238,091	4 資産評価差額	472,564
3 流動資産		純資産合計	50,659,426
(1) 現金預金			
①財政調整基金	2,897,713	負債・純資産合計	66,839,677
②減債基金	238,737		
③歳計現金	443,363		
現金預金計	3,579,813		
(2) 未収金			
①地方税	16,010		
②その他	5,715		
③回収不能見込額	△ 4,560		
未収金計	17,165		
流動資産合計	3,596,978		
資産合計	66,839,677		

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産

①生活インフラ・国土保全	829,404千円
②教育	42,765千円
③福祉	398,901千円
④環境衛生	90,177千円
⑤産業振興	175,127千円
⑥消防	0千円
⑦総務	257,754千円
計	1,794,128千円

上の支出金に充当された財源

①国県補助金等	429,248千円
②地方債	21,723千円
③一般財源等	1,343,157千円
計	1,794,128千円

※2 債務負担行為に関する情報

①物件の購入等	0千円
②債務保証又は損失補償	6,420,000千円
(うち共同発行地方債に係るもの)	0千円)
③その他	277,077千円

※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち8,576,517千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【(翌年度償還予定)地方債・(長期)未払金・引当金】	注記 【契約債務・偶発債務】
普通会計の将来負担額	37,568,897千円		
[内訳] 普通会計地方債残高	13,724,917千円	13,724,917千円	
債務負担行為支出予定額	978,437千円		978,437千円
公営事業地方債負担見込額	20,212,366千円		20,212,366千円
一部事務組合等地方債負担見込額	320,992千円		320,992千円
退職手当負担見込額	2,332,185千円	2,332,185千円	
第三セクター等債務負担見込額	0千円		0千円
連結実質赤字額	0千円		0千円
一部事務組合等実質赤字負担額	0千円		0千円
基金等将来負担軽減資産	28,279,593千円		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	4,790,361千円		
地方債償還額等充当歳入見込額	2,258,905千円		
地方債償還額等充当交付税見込額	21,230,327千円		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	9,289,304千円		

※5 有形固定資産のうち、土地は20,780,188千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は38,826,376千円です。

◎ 貸借対照表

貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、年度末において、市が住民サービスを提供するために保有する財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄っているかを総括的に表したものです。また、借方（資産の用途・運用形態）の資産合計額と貸方（資金の財源）の負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることから、バランスシートとも呼ばれています。

（１）総括

相生市の「資産」は 668.4億円で、これに対応するものとして、将来返済が必要な「負債」が 161.8億円、返済を要しない「純資産」が 506.6億円となっています。「資産」に対する割合は「負債」が 24.2%、「純資産」が 75.8%となっています。

（２）資産の部

① 公共資産

公共資産は 610.0億円で、総資産の 91.3%を占めています。

有形固定資産を行政目的別にみると、道路、橋りょう、公園などの生活インフラ・国土保全が 72.4%、で最も多く、次いで学校、社会教育施設などの教育が 16.0%となっています。

② 投資等

投資等は出資金や基金、長期延滞債権などで、22.4億円で、資産の3.6%を占めています。投資等のうち、基金は14.0億円で、投資等の62.5%を占めています。

③ 流動資産

流動資産は、財政調整基金や減債基金、形式収支に相当する現金預金、地方税などの未収金で、総額は 36.0億円となっています。

（３）負債の部

固定負債の「地方債」と流動負債の「翌年度償還予定額」を合わせた地方債総額は137.2億円で、負債の84.8%を占めています。

退職手当引当金は21.1億円で、負債の13.0%を占めています。

（４）純資産の部

公共資産等整備国県補助金等は75.2億円で純資産の14.8%、公共資産等整備一般財源等は 461.0億円で純資産の91.0%を占めています。

「その他一般財源等」は 34.2億円のマイナスとなっています。これは、将来自由に財源として使用できる純資産が既に用途が拘束されていることを意味します。通常「その他一般財源等」に計上される額はマイナスとなります。

貸借対照表の用語解説

有形固定資産	有形固定資産とは、公共資産のうち現に行政サービスを提供しているものをいいます。原則として再調達価額をもって計上することとされていますが、総務省方式改訂モデルでは、固定資産台帳が段階的に整備されるまでの間、取得原価を基礎として算定した価額をもって計上することが認められています。そのため、昭和44年度以降の決算統計における普通建設事業費（取得価額）の累計額から減価償却の累計額を差し引いた後の金額を計上しています。
売却可能資産	公共資産のうち、遊休資産や未利用資産等の行政サービスの提供に使用されていない資産
投資損失引当金	連結対象となる団体等の財政状況が一定以上悪化した場合、その損失に備えて計上されます。
長期延滞債権	収入未済額のうち1年を超えて回収がなされていないものを計上します。
回収不能見込額	長期延滞債権及び未収金の翌年度以降に回収不能と見込まれる額をそれぞれ計上しています。
財政調整基金	年度間の財源を調整し、財政の健全な運営を図るために設置された基金
減債基金	市債の償還に備えて設置された基金
歳計現金	当該年度の歳入・歳出の差額（年度末の繰越残高）
未収金	地方税等の収入未済額のうち、過去1年以内に発生したもの
損失補償等引当金	履行すべき額が確定していない第三セクター等の損失補償債務のうち、財政健全化法上、将来負担比率の算定に含めた将来負担額
賞与引当金	期末勤勉手当は12月から5月までを支給対象期間として6月に期末手当及び勤勉手当が支払われますが、6月の支払予定額のうち前年度の12月から3月までの4ヶ月分（6分の4）を計上します。
公共資産等整備国 県補助金等	公共資産の整備や投資等に対する財源のうち、国・県から受けた補助金等
公共資産等整備一 般財源等	公共資産の整備や投資等に対する財源のうち、国・県から受けた補助金、市債、債務負担行為を除いた金額。これまで財産を取得した財源のうち、市税等の額を表します。
資産評価差額	「売却可能資産」の取得価額と売却可能価額との差額や評価替による差額など

行政コスト計算書

〔 自 平成23年4月 1 日 〕
〔 至 平成24年3月31日 〕

【経常行政コスト】

(単位：千円)

	総 額	(構成比率)	生活インフラ・ 国土保全	教 育	福 祉	環 境 衛 生	産 業 振 興	消 防	総 務	議 会	支 払 利 息	回収不能 見込計上額	その他
1	(1)人件費	1,826,730	16.6%	114,893	342,744	133,737	305,760	86,656	273,205	386,851	182,884		0
	(2)退職手当引当金繰入等	163,345	1.5%	12,088	28,585	11,761	29,402	7,513	23,359	48,187	2,450		0
	(3)賞与引当金繰入額	123,149	1.1%	8,528	20,180	8,220	20,715	5,270	16,415	34,000	9,821		0
	小 計	2,113,224	19.2%	135,509	391,509	153,718	355,877	99,439	312,979	469,038	195,155		0
2	(1)物件費	1,408,107	12.8%	94,138	413,385	141,410	335,869	73,664	54,793	285,408	9,434		6
	(2)維持補修費	133,868	1.2%	18,619	31,106	1,627	67,371	5,690	1,249	8,206	0		
	(3)減価償却費	1,813,572	16.5%	969,339	278,960	54,689	272,356	120,373	36,811	81,044	0		
	小 計	3,355,547	30.5%	1,082,096	723,451	197,726	675,596	199,727	92,853	374,658	9,434	0	6
3	(1)社会保障給付	2,140,966	19.4%		11,709	2,081,112	48,145						
	(2)補助金等	489,298	4.4%	31,251	141,565	116,012	38,473	76,998	19,443	63,265	2,291		0
	(3)他会計等への支出額	2,460,628	22.3%	1,052,911	0	955,655	144,123	307,939	0	0	0		0
	(4)他団体への 公共資産整備補助金等	99,951	0.9%	40,792	0	32,390	5,988	10,211	0	10,570	0		0
	小 計	5,190,843	47.1%	1,124,954	153,274	3,185,169	236,729	395,148	19,443	73,835	2,291		0
4	(1)支払利息	238,367	2.2%								238,367		
	(2)回収不能見込計上額	116,754	1.1%									116,754	
	(3)その他行政コスト	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0			0
	小 計	355,121	3.2%	0	0	0	0	0	0	0	238,367	116,754	0
経 常 行 政 コ ス ト a	11,014,735		2,342,559	1,268,234	3,536,613	1,268,202	694,314	425,275	917,531	206,880	238,367	116,754	6
(構 成 比 率)			21.3%	11.5%	32.1%	11.5%	6.3%	3.9%	8.3%	1.9%	2.2%	1.1%	0.0%

【経常収益】

														一般財源 振替額
1 使用料・手数料 b	318,667		15,132	10,089	41,358	145,923	26	580	17,327	0	40,619		0	47,613
2 分担金・負担金・寄附金 c	58,510		0	0	50,087	0	3,406	388	2,491	0	0		0	2,138
経 常 収 益 合 計 (b + c) d	377,177		15,132	10,089	91,445	145,923	3,432	968	19,818	0	40,619		0	49,751
d/a	3.4%		0.6%	0.8%	2.6%	11.5%	0.5%	0.2%	2.2%	0.0%	17.0%		0.0%	
(差引)純経常行政コスト a-	10,637,558		2,327,427	1,258,145	3,445,168	1,122,279	690,882	424,307	897,713	206,880	197,748	116,754	6	△ 49,751

◎ 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスの経費（人件費等の「経常行政コスト」）とその行政サービスの直接対価（使用料等の「経常収益」）となる財源を対比させたものです。企業会計の損益計算の考え方にに基づき算定しています。バランスシートは、会計年度末における財政状態を示すものであり、ストック情報を明らかにする財務諸表ですが、この行政コスト計算書は、1年間の行政活動による費用対効果を表すフロー情報を表します。

（1）総括

本市普通会計の経常行政コスト総額は110.1億円となっています。市の1年間の行政活動のうち、人的サービスや給付サービス（社会保障給付等）といった行政サービスに係る経費です。これに対して使用料や手数料といった直接の受益者負担である「経常収益」は3.8億円で、差引の「純経常行政コスト」は106.4億円となっています。

一般的には、経常行政コストに対する経常収益（受益者負担）の割合は、2～8%と言われており、本市では、3.5%となっています。

（2）性質別行政コスト

性質別では、職員の給与、退職手当引当金繰入等など「人にかかるコスト」が21.1億円（19.2%）、物件費や減価償却費など「物にかかるコスト」は33.6億円（30.5%）、生活保護費などの扶助費や普通会計以外の会計等への支出など「移転支出的なコスト」は51.9億円（47.1%）となっています。

（3）目的別行政コスト

目的別では、高齢者、障害者、児童の福祉向上や生活保護費などの福祉分野が35.4億円（32.1%）を占め、次に道路、土地区画整理、公園、市営住宅など生活インフラ分野が23.4億円（21.3%）、教育分野が12.7億円（11.5%）、保健所やごみ収集など環境衛生分野が12.7億円（11.5%）という順になっています。

行政コスト計算書の用語解説

人件費	決算統計における人件費から退職手当を除いた金額
退職手当引当金繰入等	退職手当引当金に新たに繰り入れた額
物件費	旅費、備品購入費、光熱水費、委託料等の経費
維持補修費	施設等の維持修繕に要する経費
減価償却費	有形固定資産の経年劣化等に伴い、価値が減少したと認められる金額
社会保障給付	生活保護費等、普通会計が負担する扶助費支出をコストとして計上
補助金等	各種団体に対する補助金等
他会計等への支出額	特別会計等の財政的な支援金額
他団体への公共資産整備補助金等	決算統計の普通建設事業費のうち、市が管理する公共資産ではなく、県等の他の地方公共団体や民間団体等の資産形成に資する支出を計上
支払利息	市債と一時借入金にかかる支払利息の額
回収不能見込計上額	地方税や使用料などのうち、回収不能見込額として新たに貸借対照表に計上した金額及び当該年度の不納欠損額

純資産変動計算書

〔 自 平成23年4月 1 日
至 平成24年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	50,597,119	7,713,271	46,181,127	△ 3,771,528	474,249
純経常行政コスト	△ 10,637,558			△ 10,637,558	
一般財源					
地方税	4,516,198			4,516,198	
地方交付税	3,351,243			3,351,243	
その他行政コスト充当財源	1,414,851			1,414,851	
補助金等受入	1,845,418	72,359		1,773,059	
臨時損益	0				
災害復旧事業費	0			0	
公共資産除売却損益	0			0	
投資損失	△ 426,160			△ 426,160	
:					
科目振替					
公共資産整備への財源投入			943,247	△ 943,247	
公共資産処分による財源増				0	
貸付金・出資金等への財源投入			425,022	△ 425,022	
貸付金・出資金等の回収等による財源増			△ 527,930	527,930	
減価償却による財源増		△ 270,210	△ 1,543,362	1,813,572	
地方債償還に伴う財源振替			930,801	△ 930,801	
資産評価替えによる変動額	△ 1,685				△ 1,685
無償受贈資産受入	0				0
その他	0		△ 313,249	313,249	
期末純資産残高	50,659,426	7,515,420	46,095,656	△ 3,424,214	472,564

◎ 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値の会計年度中の変動額を表しています。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

(1) 総括

純経常行政コスト106.4億円の減少のほか、地方税や地方交付税などの一般財源の収入による92.8億円、補助金が18.5億円の増加となっています。その他臨時的な損益として、投資損失の減が4.3億円となっています。

この結果、22年度末時点(期首)に506.0億円あった純資産残高が、23年度末時点(期末)では506.6億円となっています。

純資産変動計算書の用語解説

純経常行政コスト	行政コスト計算書における純経常行政コスト
地方税	市民税、固定資産税など
地方交付税	普通交付税、特別交付税
その他行政コスト充当財源	地方譲与税、各種交付金、諸収入などの地方税や地方交付税以外の一般財源
補助金等受入	国庫支出金、県支出金
公共資産除売却損益	公共資産を除却、売却した場合の公共資産計上額と売却額の差額
投資損失	投資及び出資金の実質価格が取得原価に比べ30%以上下落した場合の差額
科目振替	主に公共資産の整備や貸付金の実施、回収による財源の移動を示す。例えば公共資産の整備を行った場合は、「その他一般財源」から「公共資産等整備一般財源等」に振り替わる。
資産評価替えによる変動額	売却可能資産の時価評価等による評価替えを行った際に生じる差額

資金収支計算書

(自 平成23年4月 1日)
(至 平成24年3月31日)

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	2,324,842
物件費	1,408,107
社会保障給付	2,140,966
補助金等	488,503
支払利息	238,367
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,135,277
その他支出	133,868
支出合計	7,869,930
地方税	4,640,226
地方交付税	3,351,243
国県補助金等	1,740,135
使用料・手数料	270,796
分担金・負担金・寄附金	52,613
諸収入	174,055
地方債発行額	602,116
基金取崩額	99,891
その他収入	365,679
収入合計	11,296,754
経常的収支額	3,426,824

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	1,359,747
公共資産整備補助金等支出	48,810
他会計等への建設費充当財源繰出支出	4,518
支出合計	1,413,075
国県補助金等	105,283
地方債発行額	297,500
基金取崩額	0
その他収入	174,180
収入合計	576,963
公共資産整備収支額	△ 836,112

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	150
貸付金	62,000
基金積立額	359,886
定額運用基金への繰出支出	0
他会計等への公債費充当財源繰出支出	1,340,055
地方債償還額	1,227,349
長期未払金支払支出	0
支出合計	2,989,440
国県補助金等	0
貸付金回収額	62,000
基金取崩額	0
地方債発行額	18,400
公共資産等売却収入	174,160
その他収入	62,441
収入合計	317,001
投資・財務的収支額	△ 2,672,439

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 81,727
期首歳計現金残高	525,090
期末歳計現金残高	443,363

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成23年度における一時借入金の借入限度額は1,500,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は0千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額	12,190,718
地方債発行額	△ 918,016
財政調整基金等取崩額	△ 60,121
支出総額	△ 12,272,445
地方債償還額	1,465,716
財政調整基金等積立額	316,783
基礎的財政収支	722,635

◎ 資金収支計算書

「現金」の出入りの情報（流れ）を示すものであり、その収支を性質に応じて、「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」に区分して表示しています。

（１）総括

当年度の歳計現金は、経常的収支で 34.3億円の黒字、公共資産整備収支で 8.4億円の赤字、投資・財務的収支の部で 26.7億円の赤字となった結果、前年度から0.8億円の減となり、期末の歳計現金残高は 4.4億円となっています。

（２）経常的収支

経常的支出は、人件費や施設の維持管理費などの支出で 78.7億円となっています。支出の内訳は人件費が最も多く 23.2億円、次いで社会保障給付が 21.4億円となっています。

経常的収入は、税込、地方交付税、使用料・手数料など日常的な行政活動を行うための支出を賄う収入で113.0 億円。収入のうち、地方税が最も多く 46.4億円、次いで地方交付税33.5億円となっています。

「経常的収支の部」の差額 34.3億円が、公共資産整備や地方債償還などに充当されることとなります。

（３）公共資産整備収支

自団体で資本整備にあたる部分と他団体へ補助金を支出して公共資産を整備する公共資産整備補助金等支出、そして他会計への繰出金のうち建設費に充てられるものが計上され、14.1億円を計上しています。その財源として、国・県からの補助金収入、地方債発行による収入などにより5.8億円を計上し、差引収支は 8.4億円の赤字となっており、経常的収支の一般財源で賄われています。

（４）投資・財務的収支

支出は、他会計への公債費充当財源繰出金、地方債の返済や基金の積立など、合計29.9億円を計上しています。

一方、収入には、公共資産等売却収入、貸付金回収額などで 3.2億円を計上し、差引収支は26.7億円の赤字となっています。

資金収支計算書の用語解説

経常的収支の部	人件費，生活保護等の社会保障給付，地方債償還に伴う償還利子等の毎年度継続的に支出するものと財源としての地方税等の収入
公共資産整備収支の部	市道や市立小中学校施設等など公共資産を整備するための支出と、整備財源としての地方債借入額等の収入
投資・財務的収支の部	公営企業や外郭団体への出資金、貸付金、地方債の元金償還額などへの経費及び財源
プライマリーバランス (基礎的財政収支)	地方債の利払い費と償還額を除いた歳出と、地方債発行収入を除いた歳入のバランスをみるものです。年度間の財源調整機能を果たす財政調整基金の取崩額や積立額も除きます。

Ⅲ 普通会計財務書類を活用した分析

1 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産（過去及び現世代の負担により形成された財産の額）による整備割合を見ることにより、これまでの世代によって既に負担された分の割合を見ることができます。

また、負債である地方債に着目すれば、将来世代が負担しなければならない分の割合を見ることができます。

<算定式>

- ・社会資本形成の過去及び現世代負担比率（％）＝純資産合計÷公共資産合計×100
- ・社会資本形成の将来世代負担比率（％）＝地方債残高÷公共資産合計×100

<社会資本形成の負担比率>

公共資産合計（千円）	61,004,608
純資産合計（千円）	50,659,426
地方債残高（千円）	13,724,917
社会資本形成の過去及び現世代負担比率（％）	83.0 ※1
社会資本形成の将来世代負担比率（％）	22.5 ※2

※1 平均的な値は50%～90%の間（新地方公会計の解説書による。）

※2 平均的な値は15%～40%の間

2 資産形成規模（歳入額対資産比率）

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成されたストックである資産は何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。

<算定式>

$$\text{歳入額対資産比率} = \text{資産合計} \div \text{歳入総額}$$

※ 歳入総額は、資金収支計算書の各部の収入合計の総額に期首歳計現金残高を加算して算出しています。

<歳入額対資産比率>

資産合計（千円）	66,839,677
歳入総額（千円）	12,715,808
歳入額対資産比率（年）	5.3 ※

※ 平均的な値は3.0～7.0の間

本市の平成23年度歳入額対資産比率は5.3年となっています。

3 資産老朽化比率（公共資産の減価償却累計額の割合）

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比して減価償却がどのくらい進んでいるか、把握することができます。

<算定式>

$$\text{資産老朽化比率（\%）} = \text{減価償却累計額} \div \text{償却資産取得額} \times 100$$

<資産老朽化比率>

（単位：千円）

行政目的	償却資産取得額	減価償却累計額	資産老朽化比率（\%）		
			H23決算	H22決算	増減
生活インフラ・国土保全	42,627,477	16,663,893	39.1	37.1	2.0
教育	14,400,841	6,209,268	43.1	42.5	0.6
福祉	2,480,908	2,013,931	81.2	79.0	1.2
環境衛生	9,325,296	6,860,127	73.6	71.2	1.4
産業振興	5,264,868	4,410,455	83.8	82.2	1.6
消防	1,300,419	1,104,019	84.9	83.2	1.7
総務	3,160,263	1,564,683	49.5	49.5	0.0
合 計	78,560,072	38,826,376	49.4	47.7	1.7

※ 平均的な値は35%～50%の間

本市では、全体では平均的な値の範囲に入っているものの、目的別で見ると老朽化が進んでいる施設があることが分かります。

4 受益と負担の状況

行政コスト計算書における経常収益は、使用料、手数料、負担金などの受益者負担による収入額（調定額）が計上されています。この経常収益の経常行政コストに対する割合を算定することで、経常行政コストが受益者の負担でどの程度賄われているかを見ることができます。

<算定式>

$$\text{受益者負担比率（\%）} = \text{経常収益} \div \text{経常行政コスト} \times 100$$

<受益者負担比率>

（単位：千円）

項目	金額
経常行政コスト	11,014,735
経常収益	377,177
合 計	3.4%

本市の平成23年度の受益者負担比率は3.4%となっており、残りの96.6%の行政コストについては、地方税や国・県支出金で賄われています。